

学力向上に向けた分析と今後の取り組み

《全国学力学習状況調査（2022/4/18 6年生対象）による本校の強みと弱み》

【学習にかかわること 国語】

【強みと弱み】

「知識・技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)」については、弱いところが見られました。漢字を文の中で正しく使うことは比較的できていますが、話し言葉と書き言葉の違いを正しく捉えることに課題があることがわかりました。

「読むこと」の領域は、記述式問題を中心に弱いところがあります。文章を読んで、内容を理解する力や相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることに課題があることがわかりました。

【学習にかかわること 算数】

【強みと弱み】

「図形」の領域では、コンピュータを用いて図形を作成する問題のため、意欲的に取り組むことができました。しかし、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりすることに課題が見られました。

また、「データの活用」の領域では、日常生活の事象について目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類し、データの特徴や傾向に着目して考察することに課題が見られました。

【学習にかかわること 理科】

【強みと弱み】

「生命」を柱とする領域については、やや弱いところが見られました。生命については、他の領域に比べて比較的理解が深まっていますが、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えを持ち、その内容を記述する力に課題があることがわかりました。

また、「粒子」を柱とする領域については、実験の結果を基に問題に対するまとめを検討し、自分の考えを持つことができる力に課題があることがわかりました。

【生活に関わること】（教育目標「わにっこ」と近い内容の質問項目を掲載しています）

わ

たしから 考える子

に

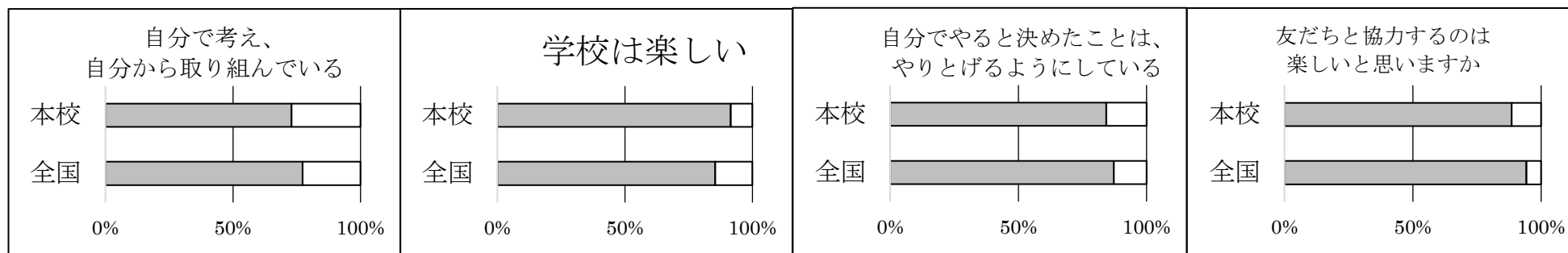
ここに 元気な子

っ

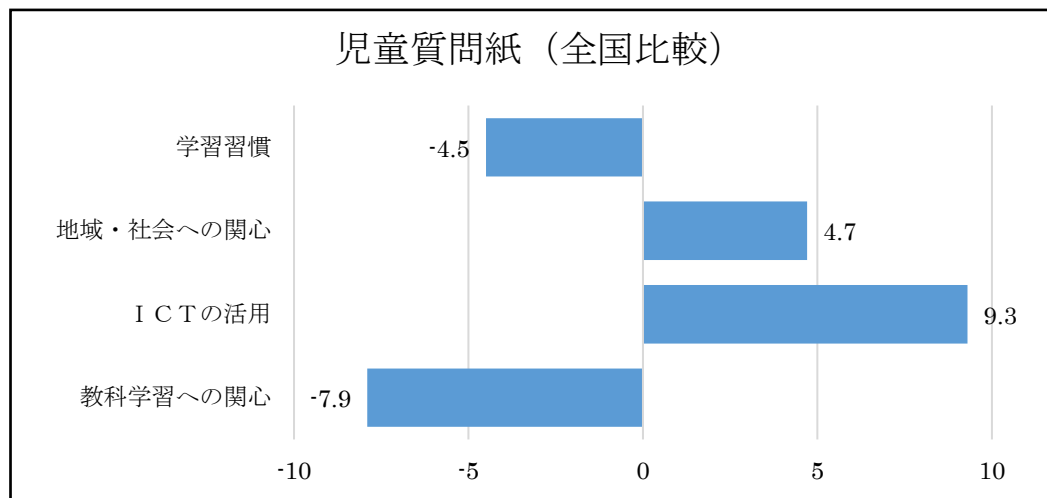
づけて がんばる子

こ

ころを 合わせる子

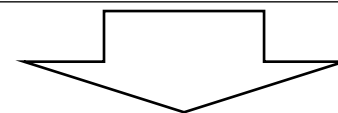


児童質問紙（全国比較）



【強みと弱み】

本校児童は、「地域・社会への関心」項目に肯定的な回答をした児童の割合が非常に高く、地域の方々の学校に対する支援体制も整っています。また、ICTの活用状況では、タブレット端末を毎日当たり前のように活用することができており、使用頻度や活用に対して肯定的な回答をしている児童の割合は大変高くなっています。しかし、教科学習に対する興味関心が弱いため教科に苦手意識を持っている児童がいると考えられます。また、家庭学習の習慣が身につけていない児童や学習時間が比較的少ないという結果が明らかになりました。



【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取り組み事項】

- 学校での授業改善……どの教科においても、学習の「めあて」の提示と学習の「ふりかえり」を行うことにより、課題意識を持って学習に取り組めるようにする。また、校内研究で「言語力を高め、自ら学び考える子の育成」を進め、魅力的な教材作り、発問の工夫など、授業作りに力を入れる。年間10回、月曜日の6校時に習熟度別で算数復習を行う。
- 家庭での学習習慣改善…和邇小学校家庭学習の手引きを作成し個別懇談会で配布 ・ 興味のある内容や課題に取り組む自主学習ノートの実践
- 学校・地域・家庭の改善…ふれあい教室での交流・学習、活動支援体制の拡充・コミュニティースクールによる地域資源（人・もの・事）の新規発掘と有効活用